

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	名古屋大学	整理番号	N01
プログラム名称	フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム		
プログラム責任者	國枝秀世	プログラム コーディネーター	田島宏康
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間評価での指摘事項等にきちんと対応し、更なる改善が図られ、プログラム全体として体制整備が一段と進展した。 具体的には、部局単位の教員連絡会を設置してプログラム担当者と研究科指導教員との間の双方向のコミュニケーションの強化を図るなど、本プログラムに対する理解と協力を教員全体に広げること努めている。 カリキュラムのメインとみられる ChubuSat 実践プログラムが、学生の所属研究室の研究との両立で二重負担という二律背反の状態になっている問題については、ChubuSat 実践プログラムのうち開発実践フェーズを選択必修にし、その代わりとして学生主催企画などリーダーシップ育成の機会を増やすことにより、学生の負担軽減を図っている。 日常的に英語に接する環境については、修了要件に一定の英語能力を追加し、また、英語による授業・セミナーの回数を増加させた。さらに海外から大学院生を招へいして学生間交流を国際化するとともに、英語による学生企画セミナーや学生同士が国際的な話題や異文化交流に関して議論する Social Gathering の活性化を図るなど、日常的に英語に接する環境の整備が進んだ。後者は、リーダーシップ育成の機会の増加にもつながっている。 これらの改善の努力により、グローバルリーダー養成を目指すという所期の目的を達成するための体制が整ってきた。 企業インターンシップを強く奨励・支援し、それが着実に実施されていることは評価できる。民間企業に就職することを検討する理学系の学生が増加していることは本プログラムの成果の現れのひとつといえる。 支援期間終了後については、高等教育支援機構（仮称）を設置してリーダーシップ育成にかかわる共通プログラムを効果的に継続することを検討中とのことであるが、本プログラムのコアともいえる ChubuSat 実践プログラムについては奨励金を保証しない形での継続を考えているようである。せっかくここまで築き上げた本プログラムのグローバルリーダー養成の精神が奨励金の支援なしに継続されるのか懸念されるところであるが、具体的にどうなるかは現時点では明確でなく、今後確認すべき事項として残されている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の負担軽減のために ChubuSat 実践プログラムの開発実践フェーズを選択必修としたが、現地視察で行った学生との意見交換の場では、意外なことに ChubuSat 実践プログラムこそが本プログラムの目玉であり、選択必修にしたのは残念であるという意見や開発実践フェーズが成立しなくなるのではと心配する意見もあった。せっかくの改善策ではあるが、学生とも意見交換を図りつつ、より良い形を見つけ出すことに努めていただきたい。 学生の英語能力を強化するために改善を図ったことは評価できるが、日常的に英語に接する環境という点では更なる改善が望まれる。また、設定した修了要件の英語能力 			

が理由で修了できない学生がかなりいるようなので、学生がこの修了要件をクリアできるように更なる工夫が望まれる。

- 応募者数は依然として減少しており、優秀な学生を獲得するために一層の工夫と組織的・継続的な取組の更なる強化が望まれる。
- 今後も学生アンケートなど、学生の意見を聴取する努力を継続して行い、プログラム改善の効果を絶えず検証することに努めていただきたい。
- 支援期間終了後、リーダーシップ育成については高等教育支援機構（仮称）での統合実施が計画されているようであるが、ChubuSat 実践プログラムを中核とする本プログラム固有のカリキュラムの部分についても、その継続に向けてより具体的な検討が必要である。